

読売新聞 きょう（2月24日）のイチ押し

1面・政治面 「若者の孤立」対策強化 政府大綱改定案

政府が3月末の決定を目指す「子供・若者育成支援推進大綱」の改定案が明らかになりました。新型コロナウイルス感染拡大の長期化を踏まえ、孤独や孤立問題への対応を強化し、増加する自殺について「最重要課題」と位置づけます。本紙の特ダネです。

- ★ この大綱は、子供や若者に対する支援を進める狙いで2010年度に初めて決定され、5年ごとに見直されています。地方自治体には、大綱を踏まえた具体的な計画を作る努力義務が課せられます。
- ★ 改定案は、介護が必要な家族の世話や家事に追われ、学業への影響が出ている「ヤングケアラー」への対策の必要性、子供らに対するSNSでの誹謗（ひぼう）中傷を防ぐ取り組みの重要性も強調しています。

社会面・スポーツ面 初戦から同地区対決 選抜高校野球抽選会

3月19日から始まる第93回選抜高校野球大会の組み合わせ抽選会がオンライン形式で開かれました。抽選上の制約が減らされたこともあって、近畿大会の決勝カードなど同地区の初戦対決が複数実現しました。

- ★ 2年ぶりとなる抽選会は、出場校が余裕を持って準備できるように例年より20日ほど前倒しして行われ、出場32校の主将がウェブ会議システムを使って参加しました。
- ★ 選手宣誓は、初日に登場する6校の主将だけで抽選が行われ、仙台育英（宮城県）の島貫主将に決まりました。

他紙と比べて

東京パラリンピック開幕まであと半年となりましたが、読売新聞が国内26のパラリンピック競技団体へアンケートしたところ、9割近くが「大会へ向けて不安がある」と回答しました。障害の種類や程度を審査して、出場できる種目を確定させる「クラス分け」が実施できるかどうかを心配している団体が4割もありました。2面にアンケート結果の概要をまとめた記事を掲載し、特集面で詳しい内容を紹介しています。